

中国における大学と継続教育：哈爾濱工業大学における継続教育の現状

著者	耿 鉄珍, 戴 玲
雑誌名	生涯学習研究と実践：北海道浅井学園大学生涯学習研究所研究紀要
巻	6
ページ	53-61
発行年	2004-02-28
URL	http://id.nii.ac.jp/1136/00002324/

中国における大学と継続教育 ～哈爾濱工業大学における継続教育の現状～

University and Continuing Education in China :
The Present Condition of Continuing Education at the Harbin Institute of Technology

耿 鉄 珍* 戴 玲*
GENG Tie Chen DAI Ling

要 旨

継続教育は、科学技術の進歩、経済の発展、必要な人材の変化に対し、教育内容においても教育機関の体制としても競争力を備える必要がある。また、高水準の教育をうける機会を多くの人々に提供することが継続教育の目的となる。

世界各国で多くの大学が継続教育を潜在力のある新しい市場とみなし、積極的に参入している。アメリカでは、ハーバード大学が社会人学生に対して特色ある教育を行っていることが知られており、中国でも清華大学が積極的に継続教育を実施している。建国当初、中国は旧ソ連の経験を吸収し、哈爾濱工業大学もソ連に学び中国国内で最初に成人高等教育課程を開設した。このコースは50年の歴史を重ね、規模を拡大しながら多くの優れた人材を養成してきた。

継続教育における教育能力を高めるための決定的な要素として、特色ある大学運営、教育の質及び量、最新の現代教育技術があげられる。大学の教育市場は大きな広がりを持つ一方で、厳しい競争に晒されている。哈爾濱工業大学は、人材育成の需要に対応するとともに、世界市場を対象にした継続教育の科目を開設し、新しい教育内容と形式を開発することによって活力ある発展を図ろうとしている。

キーワード：継続教育 競争力 応用型人材 現代教育 大学運営

1. はじめに

21世紀は、ハイテク技術を中心とする経済知識が主導的な地位を占めている時代といわれている。国家の総合力と国際競争能力は教育の発展、科学技術、知識水準によって決まるのである。そのため、教育は常に重要な役割を果たすことになり、国家発展の戦略に欠かせない存在であると考えられる。現代の情報技術は教育に広く応用され、教育システムを大きく変化させ

*哈爾濱工業大学教授

た。もちろん生涯教育はこれからの教育の発展と社会の進歩の中で注目されるに違いない。

継続教育を推進する目的は生涯教育を促進したり、教育を受けようとしたりする人々の要望を満足させることにある。あらゆる大学は、可能な限り自らを社会に開放し、大学教育の資源を十分に利用したり、様々な形態の教育を展開したりすることによって、社会の多様な人々の知識向上意欲や学習意欲を満足させるべきである。

2. 継続教育を推進し、大学自体の発展を促進する

継続教育は科学技術の進歩、知識の急増、経済の発展、産業構造と人材需要のたゆまぬ変化を把握し、対応できる競争社会の中では、常に適応能力を持ち、不断の学習や知識吸収を通して多くの技術を身につけ、かつ教養を兼ね備えた人材こそが、立ち遅れることがないといえよう。この知識構造の調整、向上、新しい技能の習得などはすべて継続教育によってはじめてやり遂げることができる。人々が、継続教育に対する期待をますます高めることによって、将来的に継続教育の市場はより拡大するであろう。市場規模の拡大が、より多くの利潤を生むという市場経済の原理に従えば、継続教育の重要性を多くの大学が認め、発展させることによって、継続教育はさらに学校経営に貢献し、収益をあげる産業に成長するとみられている。

継続教育の開設を通じて学校の教師は企業の新しい技術、発明を教授方法や研究に活用し、授業や研究活動を促進することによって間接的に研究成果を高めてきた。その一方で、より直接的に企業の研究成果を取り入れる場合もあった。また、継続教育を通じて、学校の教師はそれぞれの職業の技術者と連携して、学校と社会、知識と技術のつながりをつくり、教えることと学ぶことを促進した。このような流れは、同時に、産業・学習・研究の結びつきを強化した。

3. 教育は国内外における大学の共通任務

21世紀は生涯学習と継続教育の時代である。多くの大学は継続教育について潜在的 가능성을秘めた新しい市場であるとみなし、積極的に継続教育を推進している。

3-1 ハーバード大学の幅広い人材育成

ハーバード大学は1636年に創立された歴史ある私立大学であり、"American News and World Report"誌のランキングによると、2002年度のアメ리카国内最優秀大学のひとつにあげられている。より詳しくみると、博士養成ランキングでは第二位(1999、2000年：第二位、1995、97、98年：第一位、1996年：第三位)、2001年度ビジネス（マネジメント）スクール、教育学大学院のランキングでは第一位であった。さらに、2002年度の大学評価では第二位の地位を占めている。

2001年、ハーバード大学に在学していた学生数は、学部生が6650人、大学院生が11906人、さらにextended schoolすなわち継続教育を受けていた学生が1061人であった。その他に、13000人がextended schoolで科目履修していた。

ハーバード大学は学術的に水準の高い、いわゆる研究型大学で、研究者や高度専門職の人材

を養成する大学といわれているが、上記の数字が表わすように実際には、幅広い人材を育成している。特に社会人教育に特色があり、その名が知られている。

一方、MBA（経営学修士）を養成する有名なビジネススクールは、別に敷設されており、高学歴の人材を輩出することで世界的な名声を得ている。

また、ハーバード大学には社会人教育と、学術水準のあまり高くない成人教育を提供している部門もある。ハーバードには、現在10の学部、大学院のほかに、継続教育、サマースクール、定年後の教育、中等教育教員の再教育などを担当する組織があり、幅広い人材を育成する大学となっている。

ハーバード大学のextended schoolは、社会人、あるいはさらなる学歴を取得する成人を対象としており、次のような特徴を持っている。（1）夜間開講のオープンスクールに登録して学ぶコースと、インターネットを通じて学ぶコースという二つのルートがある。（2）学部、およびアカデミックな修士課程における科目を提供するばかりでなく、短大で教えられるような科目も提供する。（3）入学するのは容易であるが、卒業するのは難しいというシステムを取っている。（4）学費が安い。例えば、1999年－2000年度には社会人学生の入学金は75ドルであり、学士の学位を取るための年間の学費は平均4単位の場合、420ドルである。これに対して、同年度の本科生の学費は22054ドルであった。

3-2 清華大学の継続教育

わが国の清華大学においても、継続教育が非常に活発である。清華大学継続教育院は清華大学の継続教育、インターネット教育、また成人学歴教育を担当している。

現在、主にインターネット教育、成人教育、職業技能教育、国際合作教育を行っている。インターネット教育の中には、修士生課程、三年編入課程、職業技能教育などいろいろな教育訓練課程がある。職業技能教育には教育課目研究センター、ハイテク学園、IT、公衆事業、衛生管理などの訓練センターがある。主に、社会に管理科学、財政金融、土木建築、情報技術、公衆事業、衛星管理、試験指導などの訓練を提供している。そして現在すでに工商管理、あたらしい創造的な管理、企業管理、整合商売伝播、危機管理、金融管理、国際項目管理、都市企画、飲食旅行管理、現代教育管理、IT認証、精算師認定など特色を持っている課程を開設した。国際合作訓練には国際工程修士教育交流、国際営業商売管理教育、国際創造管理研究、国際英語訓練、国際項目の五つの開発センターがあり、主に商業、貿易、管理、法律、言語文化、芸術、工程技術などの科学領域で教育協力を行っている。

4. 哈爾濱工業大学の継続教育

哈爾濱工業大学の継続教育は非学歴教育と成人学歴教育からなっている。継続教育開始以来50年が経過した。その間に規模が拡大するとともに、現在では、社会人のための継続教育、生涯学習の場を実現し、学内において継続教育の重要性は増している。わが国の社会主義の建設と改革開放を進めるための多くのすぐれた人材を養成して、大きく貢献をした。建国初期、わが国

はソ連の経験を学び、高等教育機関を創立した。その当時、哈爾濱工業大学と中国人民大学が全国の大学の中でソ連に学んだ模範といわれ、中国国内では最初に成人高等教育を開設した。

哈爾濱工業大学の継続教育の経營業績は際立っているため、1983年3月に国家教育部の許可を受けて、全国に先駆けて夜間大学で勉強した本科生卒業生に学士の学位を与える大学になった。成人教育を受けた人に学士学位を与えるのは中国の歴史では初めてのことである。そして、中国高等教育の歴史の一ページを飾ることになった。そのために1997年に「全国成人高等教育評価優秀学校」という称号を国から授与された。

現在、哈爾濱工業大学の継続教育学院は、多くの学術団体において重要な地位を占めている。いくつかの例をあげると、中国大学の継続教育研究会の常務理事；黒龍江省成人高等教育協会副理事長；中国成人教育協会理事；中国建設教育研究会副秘書長；中国建設教育協会成人と高等職務教育委員会主任委員；黒龍江省インターネット教育研究会副秘書長；全国普通高等理工学大学成人教育研究会常務理事；黒龍江省建設教育協会副会長を送り出している。

4-1 在学生の状況

4-1-1 学歴教育

今、成人学歴教育で勉強している学生は17443人である。その中で在校学生が7660人；（通信教育学生が2046人；夜間大学生が3452人；離職し勉学する学生が2162人）他の通信テンションで勉強する人が3667人；インターネットで勉強する学生が1700人；威海分校には4416人いる。1998年に大学の運営する組織を調整した。学生募集規模を安定させるために、学歴の向上を呼びかけた。何年間かの努力によって学生の構造が大幅に変わった。

この三年間、学歴教育を受ける学生は着実に増加し、離職して勉学する人が（表1、図1）年々に減少しつつある。（図2）のように、本科生の比率は上昇傾向にある。

表1 最近3年間の学生数の推移（単位：人）

年度	夜間大学	通 信	離職し勉学	インターネット	威海分校	合 計
2000	2639	3972	2484		4310	13405
2001	3049	4691	2293	733	4254	15020
2002	3452	5713	2162	1700	4416	17443

図1 夜大、函授、脱産学生数比較

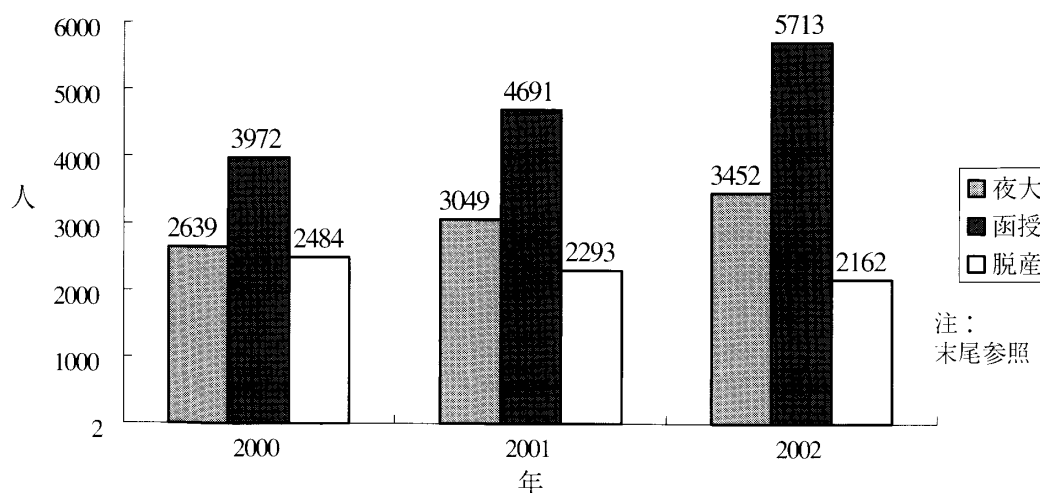


図2 近年本科、専科学生比例

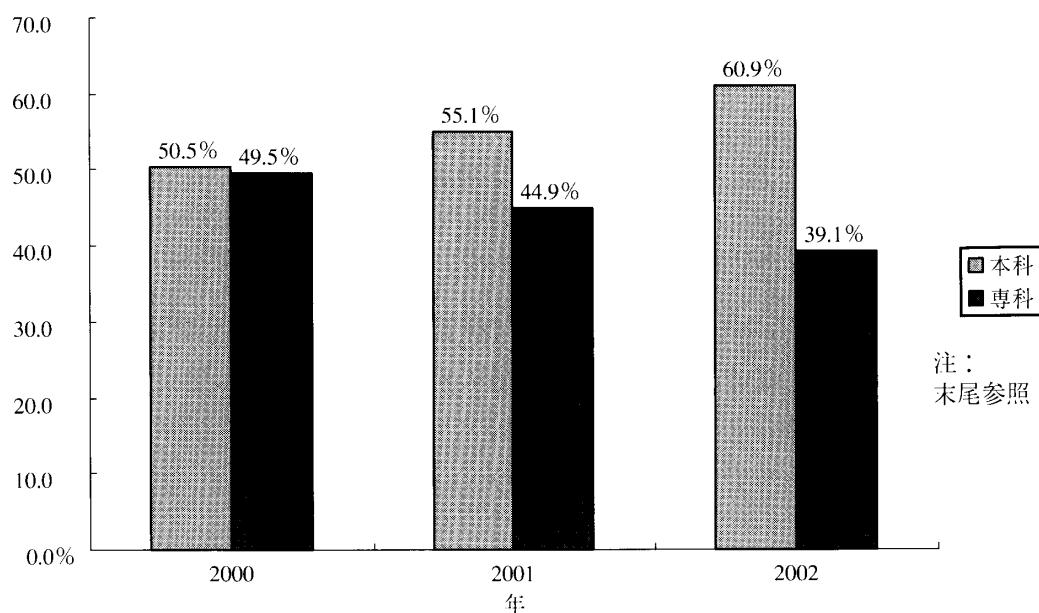


表2 インターネット学生人数統計

年度	類 別	校 内	校 外	合 計
2001	高校から本科生	98	293	391
	短大から本科生	55	228	283
	研究生	46	13	59
	合計	199	534	733
2002	高校から本科生	104	512	616
	短大から本科生	75	276	351
	研究生	0	0	0
	合計	179	788	967

4-1-2 継続教育

継続教育を重視する方針は、1988年に始まった。現在、哈爾濱工業大学は継続教育コースに関する広報をインターネットによって行っている。国防科学工業委員会各集団、建設部、国家人事部と省の人事部という四部門の支援で継続教育を行っており、社会に向かって広く広報している。2001年の春、学院のリーダーは国防科学工業委員会に属する十の団体を訪れ、各団体の教育機関及び関係のある学院、部局と緊密な関係を確立した。

2001年、継続教育は大きな業績をあげた。即ちこの二年間に、航空科学技術集団、航空科学工業集団、国家人事部高級公務員訓練中心、第二鉄砲装備局部、黒龍江省建設庁、寧波市人事局部など16団体に高級研修を行い、訓練を受けた高級技術者、高級管理員は565人にのぼった。電信局などの部局に短期訓練を行って277人が訓練を受けた。資格証明書、技術等級などの証明書取得クラスでは1256人が訓練を受けた。

表3 最近3年間の継続教育受講者数（単位：人）

年度	高等研究クラス	訓練クラス	証書クラス	合 計
2000	160	120		280
2001	275	186	440	901
2002	290	91	816	1197

4-2 財務状況

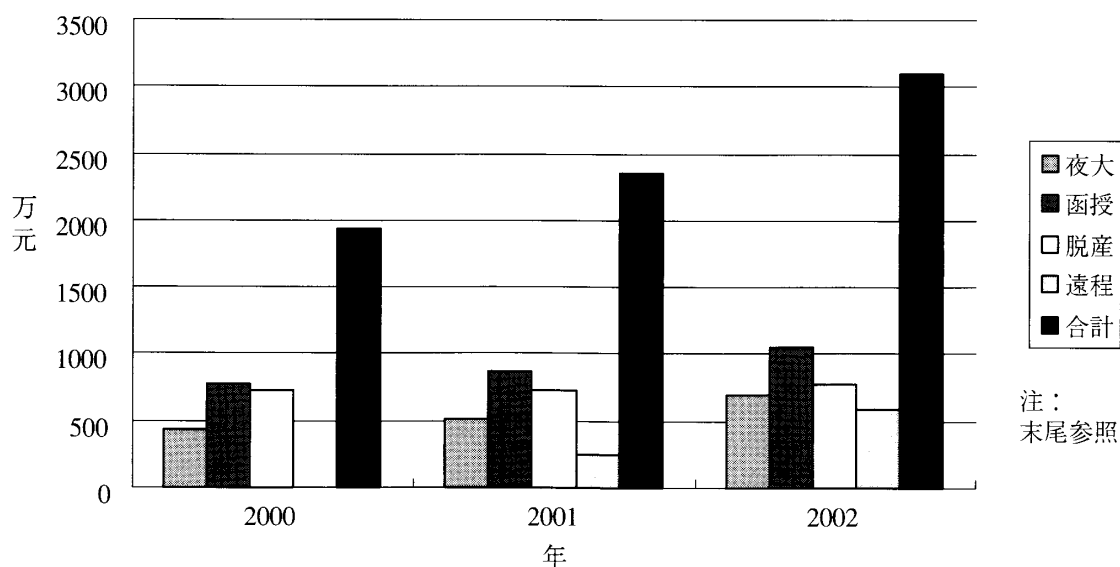
ここ数年、継続教育学院は数値目標を設定して経営を続けており、市場開拓も怠っていない。そのため、収入は増え続け、年平均増収率は29.8%である。学院は年間600万元あまりの利益を大学に還元している。さらに、学院は2700万元を越す資金を集め、延べ床面積1万5千平方メートルの教育ビルを新築した。この3年来の学歴教育収入は表4、収入の増加率は図3参照。

表4 最近3年間の学歴教育における部門別収入（単位：万元）

年度	夜間大学	通信	離職勉学	インターネット	合 計
2000	435.4	774.8	733.1	0	1943.3
2001	514.0	867.0	725.0	254.3	2360.3
2002	689.7	1053.2	767.6	589.7	3100.3

注：通信には威海分校の収入分を含む。他部門の収入は含まない。2002年は予算額であり、インターネットに威海分校の収入を含めている。

図3 学校教育における部門別収入比較



4-3 特色ある経営方針、教育品質の保証体系の確立

哈爾濱工業大学は、2000年、全学に対して世界的に著名な大学となることを目標として努力しようと呼びかけた。これを受けて、継続教育学院は募集学生数を増加させるとともに、成人教育における競争が激しくなるという状況分析に基づいて「特色を創り、レベルを高め、一流

の学院を目指す」という指導目標を定めた。成人学歴教育では、応用型の人材の養成を主に、「一主両翼」を打ち出した。つまり「一主」は人材交流によって学生の競争能力を高めるために、専攻の実践とコンピューター技術、および外国語の習得を目指して養成すること；「二翼」とは、学生が卒業証明書をもらうと同時に専攻技術の資格も取得できるように二つの資格を取るための育成制度を立てること；学生が個人の都合によって、自由に受講できるような単位制を作り、卒業の繰上げや延期ができることである。全国に先がけて成人のための副専攻を備えた大学学歴教育を実施した。

教育の質を保証するために次のような改革を行った。まず成人教育の優秀教学賞と優秀教学組織賞を設立した。教学監督制度をつくり、インターネット教学と通信教育ステーションの評価制度を確立した。試験も国の基準に従って行った。番号の順序によって座席を並べ、身分証明書をチェックし、試験場の記録をする。完全な成績管理制度を確立した。

4-4 大学の授業と研究に対する潜在的貢献の可能性を持つ継続教育

学院は「教え」と「学び」を促進すると同時に産業、学習、研究とを結びつけることを継続教育の一つ任務としている。教師は企業の新しい技術と発明を教学の中に組み入れ、教学を進めるようになった。継続教育を受ける人は大部分が中高級の技術者と高級管理者なので、継続教育を通じて、必要な研究課題に取り組んだり、学校の科学研究成果を生み出したりしている。この2年来、開設した高級訓練班では大学の実力を十分に発揮している。講師のほとんどが、大学教授と博士号を持つ研究者である。受講する学生は企業の役員、技術者、経理担当者などである。継続教育を通じて、大学は各業種の技術者との間の掛け橋となって、大学と社会、知識と技術を結びつけた。大学の科学研究に対しても深い影響をもたらすに違いない。

4-5 ネットワークを通じた教育と学習管理システムの開発

学院はネットワークを通じた講義教材と学習管理システムを自主開発した。これらはソフトウェアやデータの形を取り、ネットワークによる授業を確立した。(1) ネットワーク教育センターをつくった。センターでは、7つの放送スタジオ、授業の録音と放送システム、ビデオを用いた双方向の衛星授業を可能にする地上ステーション、毎秒2 Mbのビットレートを備えた衛星伝送回線などが使用可能である。(2) 完全な授業伝送システムを建設した。わが学院は「三網合一」という課程伝送体系を確立した。これは、衛星数字ワーク、インターネット、専用線伝送を一つにして、ネットワークを通じた授業を行うものである。(3) 講義後の補習と回答のシステムをつくった。我が校はネットワークを利用して行った講義後の指導や、質疑応答、課題を与えるといった管理システムをインターネットで実現した。このシステムは、衛星伝送システムとあわせてチュータリングの機会を拡大し、より細かいフィードバックできる教育体系につながった。

学習管理システムは、ネットワークを通じた教育でさまざまな管理機能を実現した。新入生の募集、合格者の発表、成績の通知、学籍の登録、授業料納入など業務管理や講義の告知、科目選び、自学、復習、質問と回答、宿題、試験用紙の配布など授業に関する業務もすべてネッ

トワークで対応できる。学校と教授ステーションの業務を減少できた上に効率も大幅に上げることができた。

現在、我が校のネットワーク教育は教育情報、総合教育論壇、情報の伝送とユーザとの連絡が主なものとなった。WWW、FTP、E-mail、BBS、CHATなどの機能がすべて100Mbpsの帯域で24時間ネット接続している。授業に関する情報をまとめ、通知するばかりでなく、さらに、ネットワークを用いて多種多様な問題にも対応してきた。また、情報更新も適宜行い、有効なコミュニケーションを確保した。

5. 継続教育の競争力を高める要素

大学間にも競争は存在する。この競争の中で、大学は他校に負けることなく、発展していかなければ時代に立ち遅れることになる。競争の時代に大学が生き残るためには、他の大学の後塵を拝することなく、自らの特色を生かして新しい市場を開拓しなければならない。継続教育の観点から競争力を高めるための要素をまとめると、次のような点が指摘できると考えられる。

5-1 運営に特色

中国における大学運営は大学の競争能力を高めることが重要なポイントである。継続教育をさらに発展させるために、特殊な能力を持たなければならない。つまり、大学は社会の必要性和学校の条件によって、自らの特色を定めれば、教育市場において最適なポジショニングが可能になるのである。これらを異なる視点から捉えると、大学の特色を生かしつつ、社会に必要な人材を養成することができれば、激しい競争が繰り広げられている教育市場でも勝つことができるといえよう。

5-2 質・量両面の充実

継続教育の質量は競争能力そのものを表す。教育競争とは実に質量と利益の競争である。質量が充実していれば、教育市場全体を見渡した教育評定が行えることになり、また、継続教育を実施する機関自体が厳正な評価をうけることができる。さらに、教育効果が実証されれば、国内の学習者を吸収していくばかりでなく海外の教育市場へと進出することも可能である。したがって、量的な拡大の前提としての質を高めていくことが最も重要である。

5-3 最新の教育技術

現代教育技術を利用して、継続教育を発展させることは競争力を高める有効な手段である。ネットワークの教育技術によって、多くの地域、多くの人が勉強することができると同時に教育の質と利益も高めることができる。目下、教育資源が乏しいわが国では、最新の教育技術を活用して教育資源を流通させることが、競争力を高めるための現実的な選択ではないだろうか。

大学は、持てる教育資源を十分に活用して、継続教育を発展させ、広く人々の知識を豊富にし、学習の継続意欲を満足させるべきである。そのために、私たちは生涯教育を促進してき

た。大学の教育市場は広く、そこでは厳しい競争が始まっている。私たちはこれに臆することなく、これからも世界の市場に向かい、人材育成の必要に柔軟に対応して継続教育の科目を開発していく。さらに、その過程において、新しい教育内容と教育形式を開発することこそ、自らの発展とさらなる活力の獲得につながるはずである。

注

1. 夜大（夜間大学）
2. 函授（通信教育）
3. 脱産（離職し勉強）
4. 遠程（インターネット）
5. 本科（本科生）
6. 専科（短大）

参考文献

1. 李家宝『世界10個有名な一流大学の教育学』哈爾濱工業大学出版社 2002年
5－9 ページ
2. 王英杰『アメリカ大学の発展と改革』人民教育出版社 1993年 60－123ページ
3. 韋 鈺『継続教育』（現代遠距離教育を発展し、生涯学習システムを作る）2001年3期
4. 蔡克勇『継続教育』華中工学院出版社 1982年 164－165ページ
5. 哈爾濱工業大学文献『哈爾濱工業大学継続教育発展企画』校教成（2002）759号